【別添２】（様式例２）

令和５年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立海津明誠高等学校　学校番号　３０

Ⅰ　自己評価

１　学校教育目標	１　教育目標 生徒一人一人を大切にして、自ら学び自ら考える力を育てるとともに、心豊かな人間性を育成し、心身ともに健康で社会に貢献できる人間を育てる。 ２　教育方針 (1)自らの目標を達成するための確かな学力の定着と主体的な学習態度の育成。 (2)基本的な生活習慣を培い、礼儀や規律を重視した指導の徹底。 (3)「開かれた学校づくり」を推進し、家庭や地域社会から信頼され支持される学校づくり。		
２　スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・「自ら挨拶する明誠高生」 自他の生命と人格を尊重し、多様な個人と文化を理解することのできる、思いやりをもってコミュニケーションを行うことのできる生徒 ・「積極的に学ぶ明誠高生」 様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓くために、自分で目標を設定し、なりたい自分の姿を思い描きながら、生涯を通して学び続けることのできる生徒 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」 地域に唯一の高校で学んでいることを自覚しながら、地球的規模の視点から、地域の持続可能性に対する理解を深め、地域の人々と連携・協働して社会貢献できる生徒	・普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科の３つの学科がある学校の特色を生かしたふるさと教育の推進 ・探究的な学習過程を重視し、主体的・対話的な深い学びの機会を充実 ・ICT活用授業、習熟度別授業や少人数制授業により基礎学力の定着を図り、多様な進路希望を実現 ・商業に関する専門的な知識と技術を身に付けさせて資格取得を図り、多様化するビジネス社会に対応できる能力と態度の育成 ・ 地域に根差した福祉活動や交流活動、体験的な学習、資格取得や各種コンクールへの挑戦を通した、生活における様々な課題解決力と職業観・倫理観の育成	・規則正しい生活を送り、ルールを守り、誠実な態度で高校生活を前向きに送り、自分を成長させようとする意志をもった生徒 ・学習や学校内外の諸活動において、自分の可能性を信じて実践を発展させたり、新たにチャレンジしたりしようとする生徒 ・傾聴する姿勢、自分の考えを伝える力・様々な見方や論理的な考え方を身に付けようとする生徒 ・地域とのつながりを大切にし、地域の担い手となって、よりよい社会を築いていこうとする思いをもった生徒

３　評価する領域・分野	◇学校運営
４　現状の分析	◇外部評価アンケート（令和４年度実施のもの）実施方法 ・全生徒および保護者にメールを送付しＷＥＢで回答した。 ・保護者、学校運営協議会委員では159人(46%)、生徒は357人(103%)が回答した。生徒の回答数が在籍者数を超過。ＷＥＢ回答のため、回答者の特定ができず、超過の原因は不明である。 ・多くの質問項目で昨年度に比べて今年度はA+B（あてはまる）が大幅に増加し、C+D（あてはまらない）が減少した。 ◇アンケートの結果 【生徒】 ○生徒は学校から家庭への文書を保護者に届けており、学校はメール等で連絡を速やかに伝えている。教職員については「熱心」「専門性が高く信頼できる」ととらえている。コロナ対応についても適切だととらえている。 ▲「家庭学習」の取組、「家庭で学校の話をする」について低評価の生徒が多い。学校と家庭の連携を積極的に講じて、生徒の状況把握を図る必要がある。 ・「生徒会活動、ボランティア活動、部活動」「地域に評価される活動」の実施、「教員の働き方改革」の推進について「わからない」が目立った。コロナ禍で活動を控えたことに加え、適正な評価が困難であったと思われる。 【保護者】 ○「メール配信サービス」は有効活用されており、「コロナ対応」や「台風等の安全対策の周知」は適切であると評価している。「学校からの文書によ

	る情報提供」や「生徒の健康把握」「教育相談活動」も適切であると感じている。 ▲「家庭学習の不足」を感じている保護者等は多い。また、「保護者の悩みや相談」については前年度より評価が下がっており、保護者に寄り添い協力して生徒への教育活動に取り組む必要がある。 ・「わからない」が増加した項目は、同時に低評価が減少している。「ボランティア活動」の提供、「学校行事やホームルーム活動」による生徒の自主性等の伸長、「授業」での道徳教育、「教職員の個人情報の適切な管理」が挙げられる。公開の機会や広報等の充実の必要がある。
5　学校の抱える課題	◇大幅な定員割れにより、学習習慣が未確立の生徒や合理的配慮を要する生徒の割合が高くなった。 ◇コロナ禍の影響でコミュニケーション能力が不足し、人間関係の構築に困り感を持っている生徒が増えた。 ◇情報が溢れる中、有用な情報が届けたいところに届いていない。
6　今年度の具体的かつ明確な重点目標	・「自ら挨拶する明誠高生」の育成 ・「積極的に学ぶ明誠高生」の育成 ・「ふるさと、海津に貢献する明誠高生」の育成

7　目標の達成に必要な具体的な取組	8　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）年間指導計画や単元指導計画に基づいた授業改善及び適正な観点別評価の取組 （２）学習支援ソフトを活用した授業展開 （３）３つの科（普通科・ビジネス情報科・生活デザイン科）の特色ある取組 ・総合的な探究の時間における組織的な研究の深化と実践の蓄積（自己探究・進路探究・自由探究・地域探究） ・特色と魅力ある専門教育の充実、課題研究の推進、各種検定や大会への取組 （４）教育活動の積極的な発信と確実な情報伝達、計画的な中学校訪問	（１）観点別評価に結び付く取組の点数化、可視化システムの構築 （２）研究授業・公開授業を通じた相互評価、生徒による授業評価、自ら学び続ける教職員研修の取組 （３）地域からの提言や地域人材の積極的活用と相互支援、進路目標の達成、検定の合格、大会実績、研究発表の成果 （４）学校ＨＰの見直し、市報「かいづ」活用の継続、ＰＴＡだより等各種広報活動の効果の検証

9　取組状況・実践内容等	10　評価視点	11　評　価
・主体的に教員研修に取り組み、適正な観点別評価を念頭にＩＣＴを有効活用し授業改善を図った。	①ＩＣＴ活用、教員研修により授業改善につながったか	A (B) C D
・個々の生徒の実態に合わせ進路指導を実践し、部活動を通した自己実現を図った。	②進路実現、検定合格、大会実績の成果が挙がったか。	A (B) C D
・普通科、専門科ともに探究的な学習を推進し、地域と連携した活動を展開した。	③地域連携活動の諸活動を充実させられたか。	(A) B C D
・市報、ＨＰ掲載、すぐメールを活用し、積極的な広報活動を図った。	④④学校外に効果的に広報できたか。	A (B) C D

12 成果・課題	○今年度より教員研修の推進体制が刷新され、多くの教員が主体的に研修に参加し、ＩＣＴ活用と相俟って、授業改善につながった。 ○コロナの５類移行後、働き方改革を意識しつつ、コロナ禍前の活動を検証し、学校行事や地域連携活動の精選・改善を行った。 ▲不登校傾向のある生徒に対し、コロナ禍で中学校時代を過ごした影響を踏まえて対応したが、一部の生徒は、基本的な生活習慣が身についていなかったり、人間関係をうまく構築できなかったりして、学校生活への適応に問題を抱えた。 ▲生徒数の減少や部活動に対する姿勢の変化、働き方改革により、部によっては維持が難しくなった。部活動の活性化は喫緊の課題である。	総　合　評　価 A (B) C D

13　来年度に向けての改善方策案

・すべての生徒が地域連携活動に主体的に関わり、地域の諸課題を自身の課題とみなして、総合的な探究の時間や課題研究を推進していく。

・ＩＣＴの活用が当たり前となった状況で、次にＤＸの推進が求められている。保護者や関係機関と足並みを揃えながら、社会情勢の変化を敏感に感じ取りつつ、学校と家庭、地域にとって有用かつ優しい漸進的な改革を進めていく必要がある。

・まず、部活動加入率を高めるために、登録や活動に柔軟性を持たせ、特色ある部活動の維持とすべての部の活性化を図る。

・今年度の学校評価アンケートの結果、学校の教育方針や取組、生徒の様子が保護者や外部に十分に伝わっていない現状が明らかになった。情報が溢れている中でいかに届けたいところに届けるか民間のノウハウを学ぶ必要がある。

Ⅱ　学校関係者評価

実施年月日：令和６年１月１７日

【意見・要望・評価等】

・ICT活用が当たり前の時代となっている。学校に行かなくても授業が受けられる体制を整えることが不登校生徒への対応にもつながる。タブレットの持ち帰りも検討したらどうか。
・「自ら挨拶する明誠高生」について、校内ではできていると感じるが、校外となると見ず知らずの人に声を掛けるのはハードルが高い。住民も生徒たちに挨拶し関わっていってもらいたい。
・初めて運営協議会委員を務めたが、それまでのイメージとは全く違い、教員集団・設備ともに整っている。
・学習成果発表会に象徴されるように、３つの科の特色を生かした個に応じた教育を実践している。
・少子化のため、交通の不便な本校は、生徒募集は極めて困難だが、地域に必要な学校である。
・一定の広報活動は行っているが、効果的かどうかわからない。広報活動は、見せ方が重要である。いかに魅力的な学校であるかが伝わらなければ意味がないので、実績を示すだけでなく、日頃の活動の写真や生徒のコメントなど興味を喚起する記事を掲載した方がよい。市報の活用については、毎月の枠に加えて、年に１回、本校の特集ページを組んでもらえるよう依頼したらどうか。
・アンケートを基にした評価が前面に出ているが、回数や人数など数値を示し、実績情報を評価基準にすれば、よりわかりやすくなる。
・アンケートの質問文が適切ではないため、回答しづらい。よって、アンケート結果自体が現状をあまり反映していないのではないか。アンケートは印象であり、現状と乖離している可能性がある。